

ハウスの台風対策は できていますか？

9月になり、いよいよ台風シーズン本番です。7月の台風5号は小笠原諸島周辺で発生したため、発生後すぐに関東へ接近しました。台風が発生するほど海水温が高いため、今後の台風は勢力を維持したまま近づく可能性があります。今のうちにできる対策をしつかり行いましょう。

ハウスにかかる風の力

ハウスに対してかかる風の力は、ハウスを側面から押す力だけでなく、引く張る力や地形によって上から押す力もかかります(図1)。

図1 ハウスに対してかかる風の力

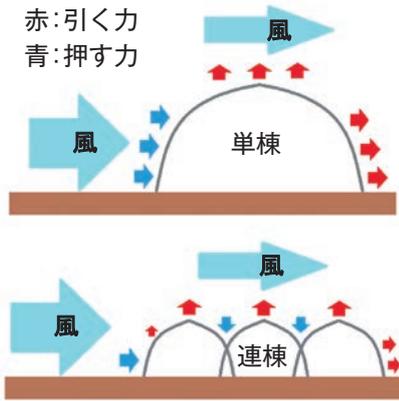
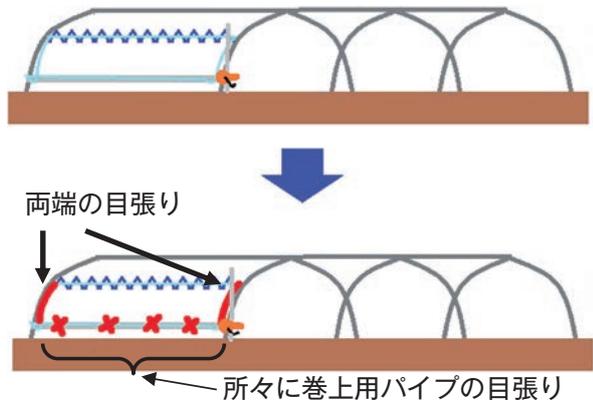


図2 側窓目張りの例



できることから着実に

●単純かつ最も重要なのは、ハウスの出入り口をしつかりと閉めることです。ハウスの内部に風が吹き込むと、内部から外側に風が押し出されるだけでなく、前述のとおり外側に引っ張る力が加わっているため、大きな力がかかります。動きの軽い扉の場合、風で少しずつ開いてしまう場合もあるので、金具等で勝手に開かないようにしておくことも重要です。

●側窓から風が吹き込まないように目張りをすることも、ハウス内部に風が入らないようにするという観点で有効です(図2)。横からの風で巻上用パイプが持ち上げられると、大きな開口部ができることになり、ハウスに大きな力がかかります。新設パイプハウスなどは、アーチパイプが引き抜かれてしまうこともあります。

台風の後には慎重に

台風前後の曇雨天が続いた後に晴天、高温が来ると、植物が対応しきれず、果実や葉の日焼けが発生しやすくなります。台風前からかん水を控えていた場合はかん水し、強日射対策として遮光カーテンの利用等を検討しましょう。

また、ぱつと見ただけでは気付かない骨材のゆがみや、制御装置(特に天窓)の安全装置が作動している可能性があります。設備を動作させる際は異常が無いか、自動化済みの装置は正常に動作するか1つずつ確認しましょう。

◆お知らせ◆

近年、カメムシ類による
水稻の被害が増大しています!



埼玉県マスコット「コバトン」

7月	8月	9月
← 草刈を避ける期間 →		

水稻の収穫量と品質に悪影響を与えるカメムシ類は、河川等の雑草で越冬しています。稲穂が出る時期に河川等の草刈りを行うと、より多くのカメムシ類を水田に呼び込むことになってしまいます。そのため、その期間における河川等の草刈りを極力避ける取り組みを実施しています。

草刈り時期をずらすことで、例年より雑草が繁茂する可能性がありますが、ご理解とご協力をお願いいたします。